

火災リスク対策で採用増

非溶接工法 現場負担軽減も

YKKAP

これまでアルミサッシが提案している非溶接工法。11年度から累計の採用物件は450件を超え、ゼネコンなどに定着してきた。

東京・墨田区で新築マンションを施工中の古久根建設（東京都文京区、渡部貞良社長）は、初めての採用。安心、居室部分の窓枠、玄関ドア枠から、エントラ

人の就労改善にも役立っている」と効果を口にする。

現場では、サッシ施工を担当する米森工業（茨城県水戸市、米森厚社長）の作業員が、躯体に打ち込んだアンカーと枠側の部品との間に高強度樹脂

シードア枠まで、7階建て・32戸の建物のほぼ全面に取り入れた。高橋良和所長は「火災の心配が減り、施工管理の立場からメリットが大きい。職

劑を注入していく。「最初は今まで通りできるか不安があったが、思っていた以上にやりやすく、すぐに流れ作業ができる」と加え、溶接用の鉄筋、

シールする剤は5分程度で固化し、サッシ枠の取り付けは終了した。溶接作業は、火災や感電などリスクが大きい工程現場を張り、環境配慮を実現する。YKKAPの宇田川敏規氏は「物件1棟まるごとで非溶接化できる」と自信をみせる。また、改修物件への採用はまだ15%程度だが、「（火気を使わない）潜在的なニーズは高く、増える可能性がある」と期待を込める。

工具や装備は最小限で済み、作業員側の負担軽減につながっている。就労改善効果は、管理確認がいらないので、職人がすぐ帰れる」（高橋所長）。また、これまで型枠工が事前に躯体に埋め込んでいたアンカーをサッシ工が自ら打ち込む仕様に変更した点を評価。「サッシ工が自ら取付位置を調整でき、品質を確保しやすい」（同）と指摘する。工事が着々と進む中、「段取りの問題もない」（同）といふ。メーカー側は、さま

まな要求に応えるため、適用商品数の拡大に取り組む。現在は売上ベースでRC造の8割、S造の3割まで拡大。9月からシールする剤は5分程度で固化し、サッシ枠の取り付けは終了した。溶接作業は、火災や感電などリスクが大きい工程現場を張り、環境配慮を実現する。YKKAPの宇田川敏規氏は「物件1棟まるごとで非溶接化できる」と自信をみせる。また、改修物件への採用はまだ15%程度だが、「（火気を使わない）潜在的なニーズは高く、増える可能性がある」と期待を込める。